

日本型のシーニックバイウェイ(仮称)のコンセプト

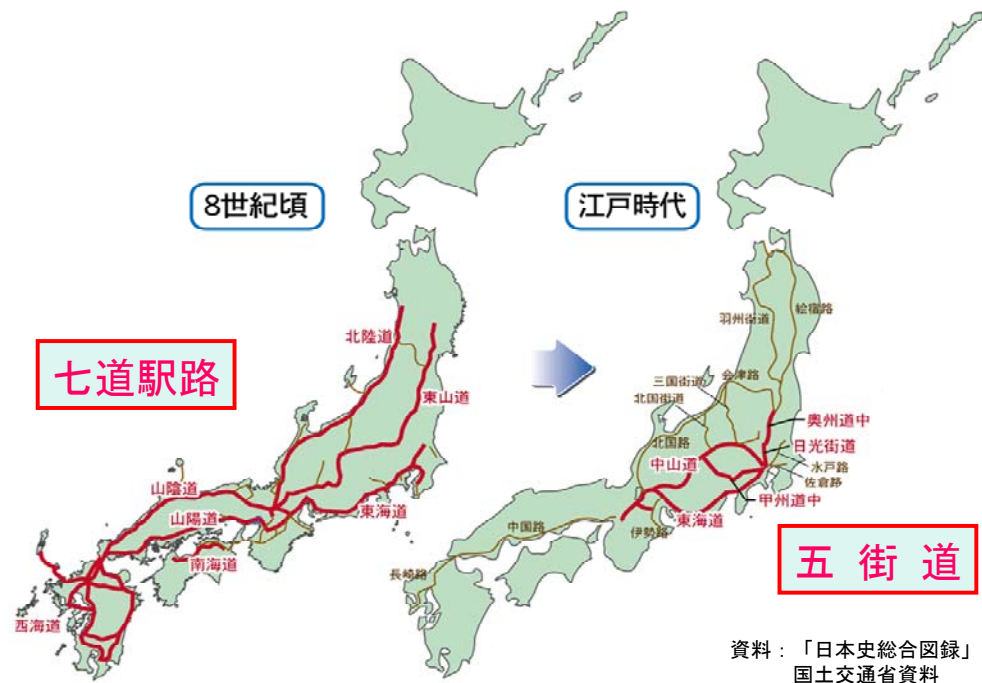
～ “新しい道空間づくり”のコンセプト ～

平成17年12月7日

1. 美しく豊かな地域の形成のために

① 人・文化の交流、そして生活空間としての道

<人・文化の交流の役割を果たしていた道>



- ◆ 物資や情報は、街道を通じて伝えられた
- ◆ 宿場等は、人・文化の交流を支え、地域活性化に寄与した

<生活空間として使われていた道>



「朝鮮人来朝図」



きだいしょうらん
「熙代勝覧」



「江戸図屏風」

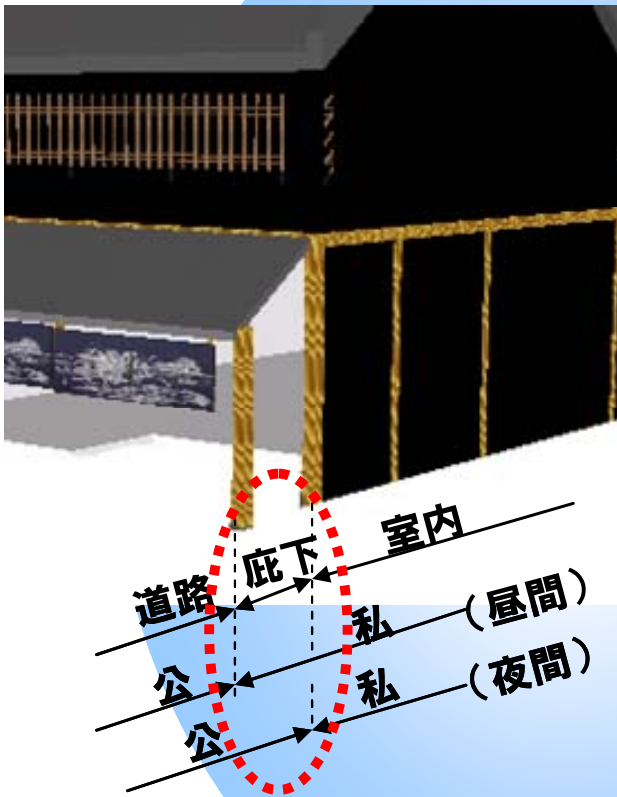
- ◆ 祭や商売、大道芸等を行い、また、人が集まり遊ぶ生活空間となっていた

➤ 戦後、より早く移動することが優先され、道の多様な機能が見過ごされてしまったのではないか

② 道と沿道の融通で地域の利便性が向上

江戸時代、^{ひさし} 庇下は“半官半民”の柔軟な使われ方

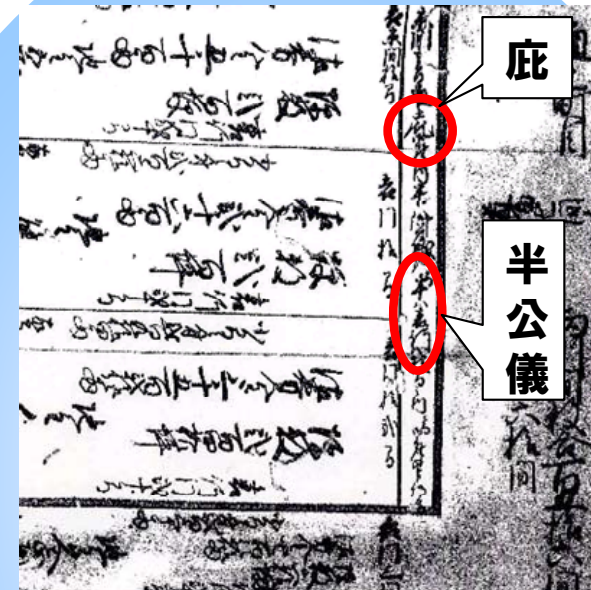
＜官民共同で利用した道＞



庇下での商売の様子

◆ 庇下は、昼間は店舗の一部(私)、夜間は道(公)として利用された

＜庇下に関する^{まちぶれ}町触*＞



「沽券絵図」

江戸町奉行の命令で作成された沽券絵図(地籍図)にも、庇下は^{はんこうぎち}半公儀地(半分は公の地)と記載

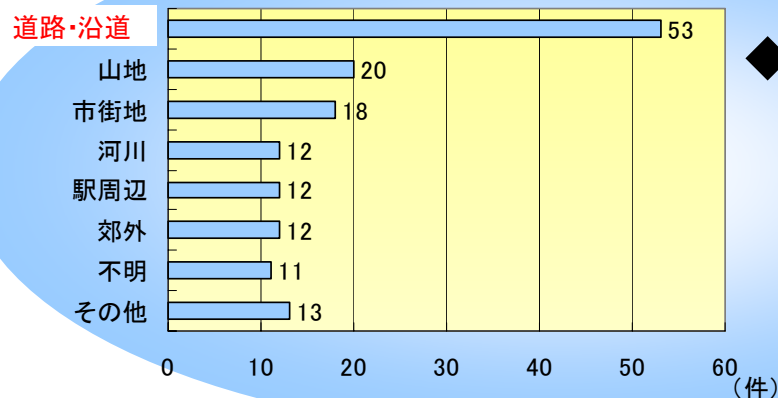
◆ 当時(江戸時代)の庇下は、半分が公の地と法令で定められていた

* 幕府や大^{まちかた}名が町方に布告した一種の法令

➤ 私と公が柔軟に協力することで地域の活性化につながるのではないかな

③ 道と沿道を一体的に考えることによって景観が向上

<好ましくない景観>



◆道路・沿道の景観が、突出して好ましくないとされている

<残したくない景観例>

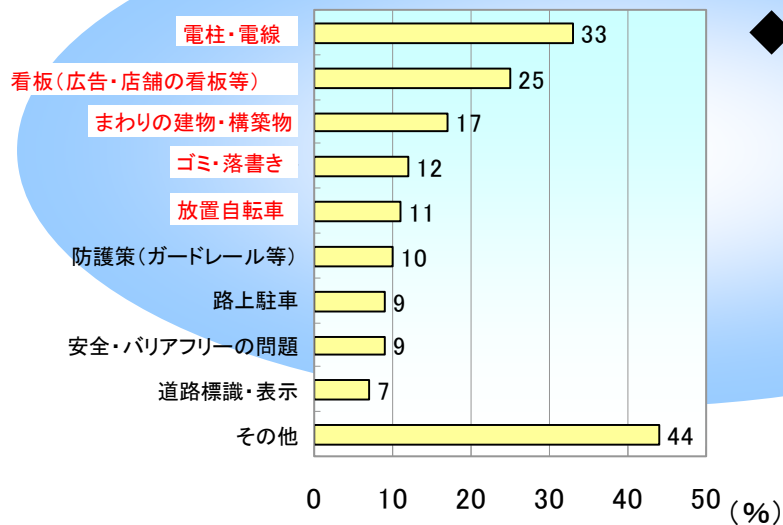


乱立する看板



違法看板

<残したくない景観>



◆看板や建築物など沿道の課題や、放置自転車や落書きなど道の使われ方にも課題が少なくない



壁への落書き

➤道路管理者と道路利用者、沿道住民等の協力により景観が向上できるのではないかと

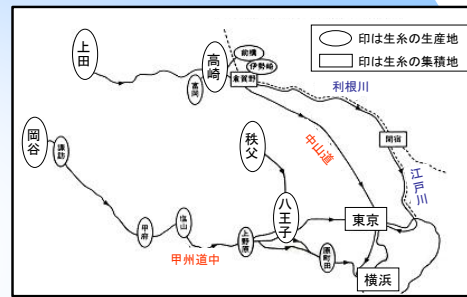
④ 訪れる者をみちびくことで地域の資源を活性化

＜活かすことのできる観光資源＞

- ・幕末から明治にかけて、“日本のシルクロード※”として輸出用の絹が運搬されていたが、現在ではあまり知られていない



やりみず
鑪水街道(東京都)



※シルクロード

上田、高崎、岡谷、秩父等から中山道、甲州道中を經由して、東京、横浜に至る道

- ・鎌倉時代に、伊末行によって造られた秘仏がまつられている寺であり、優れた資源があるにもかかわらずあまり知られていない



せきぶつじ
石仏寺(奈良県 生駒市)

＜活気が失われた通り＞



山口県 宇部市



秋田県 大曲市

▶ 様々な資源を有機的に結ぶことで、観光や地域の活性化等に対し、相乗的な効果が期待できるのではないか